

授業科目 疫学

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

＜概要＞ 公衆衛生学や公衆看護学またその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。それに対して前期で学んだ統計学は、ある意味で道具である。この両者によって現在医療の現場で重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得が可能なのである。

＜一般目標：GIO＞

証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方を用いて、各種疾病の特徴を理解する。

＜行動目標：SBO＞

1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。
2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。
3. 各種疾病の原因を説明できる。
4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。
5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題
1	生存分析の方法	生命表の原理、生存分析の方法論について学ぶ。	1	講義
2	生存分析の応用	カプラン-マイヤー法を用いてEBMの実例を学ぶ。	1,2	演習
3	感染症の疫学 1	感染症の疫学を学び、小グループに分かれて調べる。	5	講義＋小グループ活動
4	感染症 2	小グループ活動	1-5	小グループ活動
5	感染症 3	小グループ発表	1-5	小グループ発表
6	職業病の疫学 1	職業病の疫学を学び、小グループに分かれて調べる。	5	講義＋小グループ活動
7	職業病 2	小グループ活動	1-5	小グループ活動
8	職業病 3	小グループ発表	1-5	小グループ発表
9	公害病の疫学 1	公害病の疫学を学び、小グループに分かれて調べる。	5	講義＋小グループ活動
10	公害病 2	小グループ活動	1-5	小グループ活動
11	公害病 3	小グループ発表	1-5	小グループ発表
12	生活習慣病の疫学 1	生活習慣病の疫学を学び、小グループに分かれて調べる。	5	講義＋小グループ活動
13	生活習慣病 2	小グループ活動	1-5	小グループ活動
14	生活習慣病 3	小グループ発表	1-5	小グループ発表

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	はじめて学ぶやさしい疫学	田中平三、能勢隆之編	南江堂	2005年第4刷、¥1800＋税
参考書	疫学・基礎から学ぶために	日本疫学会編	南江堂	1999年第4刷、¥2800＋税
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
1. 第2回目には演習課題を提出する。 2. 最終的にレポートによって評価する。	※グループ分けは第2回目の終了前に発表する。